



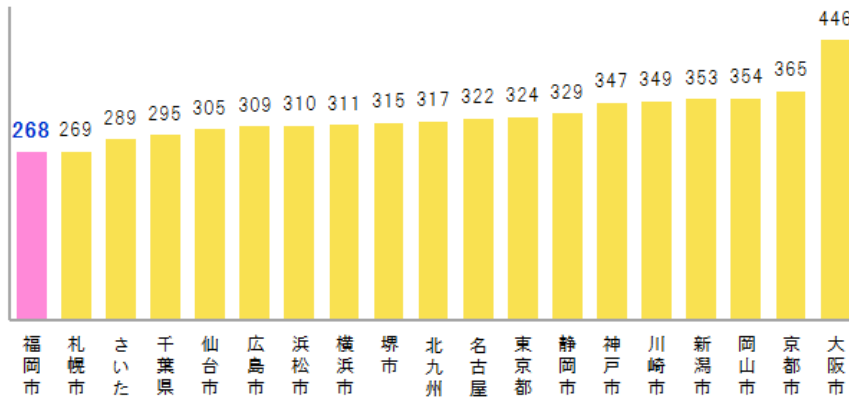
そこで、那珂川水系南畑ダム上流に、有効貯水容量 3,970 万立方メートルと県内最大となる五ヶ山ダムが平成 30 年度供用開始予定で建設中です。このダムは漏水対策容量を持つことが特長で、全体で 1,660 万立方メートル、福岡市分 1,310 万立方メートルを有し、10 年に 1 回を超える規模の異常漏水時に対応するものです。ストッパーの出現は心強い限りですが、引き続き「節水型都市づくり」も必要でしょう。

建設中の五ヶ山ダム（平成 28 年 1 月撮影） 五ヶ山ダム完成予想イメージ図
 影：福岡市水道局提供

生活インフラとしての欠かせない水道ですが、地域を取り巻く厳しい水資源環境を踏まえ、水源確保や地域が一体となった節水への取組を進めてきたことが、福岡市が今なお成長を続ける要因の一つになっていると考えています。

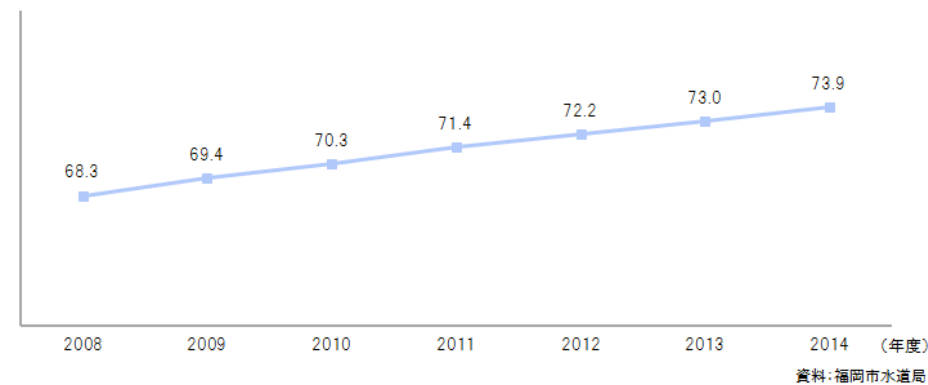
【図1】 給水人口1人1日あたり配水量【大都市比較】(平成25年度公表分)

[参考資料]



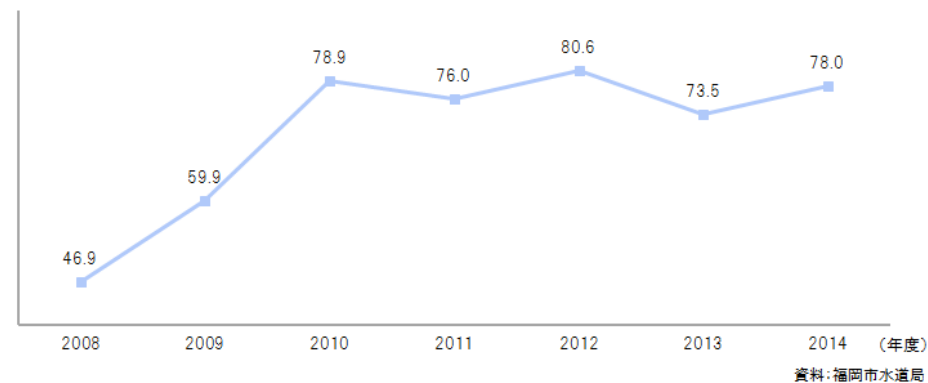
出所：公益社団法人日本水道協会
 *水道事業者により給水域が都県単位のところもある

【図2】 水質保持や防食性に優れた安全な配水管の割合（防食管延長比率）



【参考】 水道水のおいしさ向上度（残留塩素濃度目標達成率）は高い水準を維持している。（図3）

【図3】 水道水のおいしさ向上度（残留塩素濃度目標達成率）



写真はいずれもイメージ（ページトップ画像は「五ヶ山ダム完成予想イメージ図」を使用）

Share This Post: <http://urc.or.jp/fukuokagrowth-gcs-clmn14>

バックナンバー: http://urc.or.jp/category/research_publication/publication/fukuokagrowth-2015-2016-column